私の
臨床レポート

東京医科歯科大学大学院
医歯学総合研究科
部分床義歯補綴学分野
風間 龍之輔
先生

今回のアイテム

ハーキュライト ウルトラ／コンポジットレジン
デミ／LED光照射器

レジン充填の心強い味方が現れた
ハーキュライト ウルトラ／コンポジットレジン

歯冠色修復の中で歯質削除量を最小に留める事が可能なコンポジットレジン修復は、う蝕の進行状況に応じてセラミック修復と適応を分ける必要不可欠な修復法である。

私は臨床でオールセラミック修復を選択する機会が多いが、勿論、侵襲度を考慮してコンポジットレジンを使用する事も決して少なくは無い。

レジン充填を専門としない私の臨床では、色調、研磨性に加えて充填作業時の容易な操作性が材料選択上のキーポイントとなる。

各社より様々な材料が販売される為、常にその選択には困惑していたが、この度Ｋｅｒｒ社より上梓されたハーキュライトウルトラを使用する機会を得た為、ここに使用実感を述べてみたい。これまで複数のコンポジットレジンを使用してきたが、ハーキュライトウルトラは色調と硬さについて最も自身の臨床に適合するものである。

使用経験のある複数製品の中では中程度の硬さを感じるペーストであるが、これは小さな窩洞の深部への充填作業を確実にする事ができる。また、深い窩洞に対してレイヤリングを行う場合には象牙質の構造を模倣するような築盛作業が極めて容易であり、デンチンおよびエナメルの複数シェードのラインナップにより、審美的充填を実現することが可能である。加えて高密度のマイクロフィラーは研磨作業時の簡便さと仕上がりの艶において実感する事ができる。

レジン充填の腕に自信が無い私にとって、心強い味方が現れたと言わせて頂きたい。

光照射器は盲点だが重要
デミ／LED光照射器

大学卒後１０年経過するが、臨床及び研究については一貫してＣＡＤ／ＣＡＭにより製作されたオールセラミック修復に携わっている。

従来の焼成法によるオールセラミック修復物と比較して物性の向上したＣＡＤ／ＣＡＭセラミック修復物であるが、破折や術後不快症状を回避するためには未だ厳密な接着術式を欠かす事はできない。

確実な接着の為の要素の一つに光照射器の質が挙げられる。これは接着材料の改良に注目が集まる中、盲点となりがちであるが実は非常に重要である。

私はＬＥＤ照射器であるデミを常時使用している。コンパクトなコードレス仕様の本体は口腔内のいかなる部位に照射する際にも取り回しが容易であり、かつＬＥＤ照射器において省略されがちなファンを内蔵する為に光源への過熱ストレスを回避できる。

そのため光源は複数回の照射に耐久性を有することが可能となる。

これは照射器の出力検査機であるＬＥＤ Ｒａｄｉｏｍｅｔｅｒにより定期的にチェックを続けながら使用しているが、その安定した照射強度は十分信頼に足るものといえる。

また、Ｋｅｒｒ社のＨａｒｄｎｅｓｓ Ｔｅｓｔ Ｄｉｓｋにより確認可能なコンポジットレジンの深部重合度についても、臨床で使用するあらゆるコンポジットレジンにおいて実用的な硬化を得られている。

これまで複数のハロゲン、プラズマおよびＬＥＤ照射器について試用の機会があったが、前述の点からＫｅｒｒ社のデミは一般臨床で有効な照射器であると判断できる。